

患者ID:@PATIENTID

2018.2.9作成

@PATIENTNAME様

胃化療(アブラキサン+サイラムザ)

2021.3.5改訂

指示者	@USERNAME
コース数	

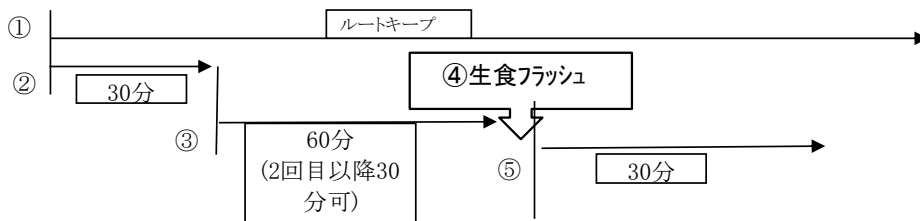
身長	HEIGHT01_D	cm
体重	HEIGHT01_L	kg
体表面積	#VALUE!	m2 (DuBoisの式)

実施印

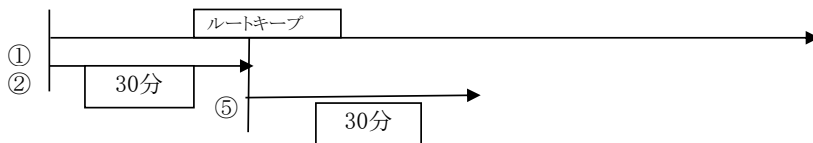
	薬物/実際の投与量	投与時間	投与経路	day1	day8	day15
①	生理食塩水500mL	ルートキープ	点滴			
②	グラニセトロン3mg 1バッグ デカドロン3.3mg 2A	30分	点滴			
③	生理食塩水250mL サイラムザ 8mg/kg ()mg/body 最小単位10mg #VALUE! 計算値	60分 (2回目以降は30分でも可)	点滴	フィルター使用		フィルター使用
④	生食フラッシュ(ルートキープ分で)					
⑤	生理食塩水50mL アブラキサン100mg/m2 ()mg/body 最小単位10mg #VALUE! 計算値	30分	点滴	フィルター不可	フィルター不可	フィルター不可

投与手順

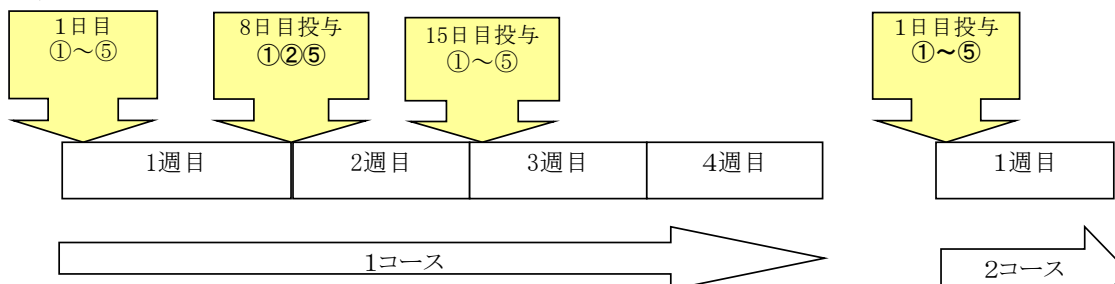
day1,15



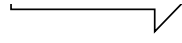
day8



スケジュール



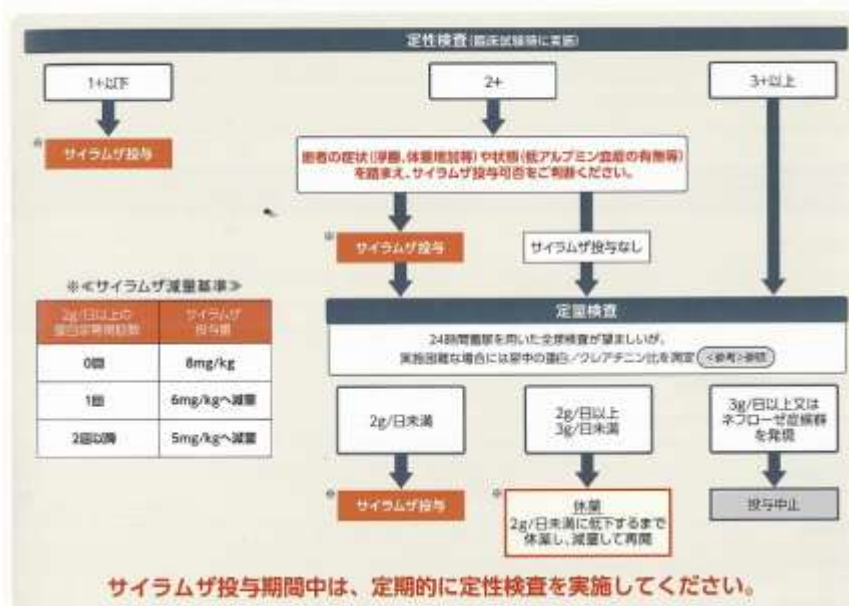
-



注意

Infusion Reactionに注意
 消化管穿孔、血栓塞栓症、創傷治癒遅延の副作用あり。
 高血圧、蛋白尿に注意

〔尿蛋白検査及び蛋白尿発現時の対処方法〕



〔参考〕尿中の蛋白/クレアチニン比¹⁾²⁾

随時尿の「尿蛋白/クレアチニン比」は、以下により求めることができます。

尿蛋白/クレアチニン比 = 随時尿の尿蛋白定量結果 (mg/dl) / 尿中クレアチニン濃度 (mg/dl)

〔尿蛋白/クレアチニン比〕のポイント

1 日尿蛋白排泄量 (g/日) とほぼ等しい、もしくはよく相関することが知られています。

尿蛋白/クレアチニン比が 0.3 ~ 0.5 の場合、尿蛋白排泄量は 0.3 ~ 0.5g/日程度と推定できます。

● Infusion reaction 発現時の対処方法

サイラムザ投与により infusion reaction があらわれた場合には、副作用の症状、程度に応じて以下の対処方法を考慮してください。

(Infusion reaction 発現時のサイラムザの対処方法)

